

第5回文学紀行 ～春めく須磨を巡る～

2018.3.18



集合は山陽須磨寺駅

参道の商店街（感じ良かったけれど写真撮り忘れた）を歩く事5分。須磨寺到着



境内入口付近にある山本周五郎の文学碑「須磨寺付近」。足立巻一さんの尽力で建てられた。周五郎は関東大震災を逃れて須磨区離宮前町の友人姉宅に下宿していた。



本日のナビゲーターは、たかとう匡子さん





須磨寺境内の庭、「敦盛最後」
助け舟に乗るべく浅瀬に行く平敦盛
を呼び留め、一揆打ちに誘う熊谷次
郎直実。等身大（等馬大？）の銅像。
結構リアルです。



須磨寺本堂（遠景）。大正13年、尾崎放哉
は本堂の堂守を9か月勤めた。その間に句
集「大空」600句のうち、344句を作
句した。

「海のあけくれのなんにもしない部屋」

敦盛の首洗いの池
本堂の横にひっそり





まだまだ奥が。広い境内を進むと



敦盛首塚です

奥の院付近から海の方を望む





昼食は須磨浦公園内の丘の上に立つ、とあるレストハウス

窓から海が、まだ瘦せた桜が。十日後の満開を思いながら



ユーモラスな句
「蝸牛角ふりわけよ須磨明石」
芭蕉

坂を下ると、なぜか蕪村のあの名句が
「春の海終日のたりのたりかな」
たしかにイメージはぴったり。





二号線沿いのお蕎麦屋さんの奥に
五輪の塔が



敦盛塚石造五輪塔
高さ397センチメートル。中世の五輪
の塔としては国内2番目の大きな塔。
建立は室町末期から桃山時代で「敦盛」
とは伝承。

このあと須磨浦公園駅にて解散。
おつかれさまでした。